

	名古屋大学農学部 同窓会報	発行所	名古屋大学農学部同窓会 名古屋市千種区不老町 http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/
	セコイア通信	編集人	谷川東子・三浦 健
		発行人	福島和彦
		印刷所	株式会社 クイックス

夢をあきらめない—大学院生命農学研究科・農学部の現状—

名古屋大学大学院生命農学研究科長・農学部長 土 川 覚



名古屋大学農学部同窓会（セコイア会）会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃から大学院生命農学研究科および農学部の教育研究活動にご理解とご支援を賜り、心からお礼申し上げます。また、この春に卒業・修了を迎えられた皆様に、心よりお祝い申し上げます。今後の更なるご活躍・ご発展を祈念いたします。農学部（1951年創立）および大学院（1953年創立）は、これまでに10,000名以上の学士、修士6,800名、博士学位取得者1,600名を社会に送り出してきました。国内および国外の産業界、行政ならびにアカデミアで活躍できる次世代リーダーの育成を目指し、農学に関わる基礎から応用までの幅広い知識と能力を涵養する教育を実践してきました。

さて、昨年来の新型コロナウイルスによる影響で、世の中が大きく変わりました。キャンパスライフも一変しました。大変な状況ではありますが、以下に、名古屋大学と生命農学研究科・農学部の近況を簡単にご報告させていただきます。2020年度の入学式は総長・研究科長・学部長からのビデオメッセージ配信に変更され、秋季卒業式は人数を限定したうえでの一部対面実施となりました。オープンキャンパス、ホームカミングデイ等の各イベントもオンライン、オンデマンド対応での実施となりました。このような中、名古屋大学では、本学構成員が状況に応じて、適切かつ柔軟に活動する目安である「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）における名古屋大学の活動指針」を策定しました。これは、1) 名古屋大学の危機対応状況を総括的に示すカテゴリーと2) 教育（講義・演習・実験・実習）、教員・研究活動、事務業務、会議、学生の入構制限、学外者の入構制限、課外活動、出張・旅行の項目に関わる具体的な活動指針（レベル）からなっています。状況は、刻々と変化しておりますので、構成員はホームページでカテゴリーとレベルを確認し、これに基づいて教育研究活動を展開しております。

生命農学研究科・農学部においても、ウェブ・

アプリケーションである
NUCT（Nagoya University
Collaboration and course

Tools）等のICTを使った遠隔授業の積極的併用、人数を限定した対面授業、学生の通信環境に配慮したアクセスポイントの設置等を実施し、教育環境整備に努めております。また、学科長、クラス担任を中心とした1-3年生への声かけや各研究室での教員と学部生・大学院生とのオンラインおよび対面でのコミュニケーションをいろいろ工夫することによって、学生が置かれている状況を把握しつつ迅速に対応することを心がけています。留学生の渡日・滞在・帰国および海外滞在の日本人学生については、部局内関連教員の個別サポート体制により、各人の状況にあった留学生活が送れるよう対策を講じています。

このような厳しい状況下でありますので、保護者等の家計急変やアルバイト収入減などにより経済的に困窮している学生を支援するため、名古屋大学は、生活支援金の支給および授業料納付の延期策を公表しました。また、これらの施策の財源を下支えすべく、新型コロナウイルス感染症対策緊急学生支援基金を期間限定（2021年3月31日まで）で設置いたしました。当該支援基金および学生への食糧支援については、セコイア会ホームページでも紹介させていただき、農学部同窓会会員の皆様から多くのご支援を賜りました。先輩方からの応援に勇気づけられ、夢をあきらめずに学究の志を強めた学生も多くおります。紙面上ではありませんが心より御礼申し上げます。また、生命農学研究科附属フィールド科学教育研究センター東郷フィールドでは、本学学生支援センターと連携し、学生・留学生に対して、農場生産物の無償提供を実施しました。

ところで、2020年4月1日から、我々の正式名称は、「国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学」となりました。新しい大学のモデル構築、そして、国際的な競争力向上と地域創生への貢献を目指して、名古屋大学と岐阜大学は国立大学法人東海国立大学機構を設立

しました。東海国立大学機構の中で、生命農学研究科・農学部は、大きな役割を担います。東海地域は、農林業においても主要な生産地域であり、食品加工産業も盛んです。名古屋大学と岐阜大学の農学分野にはそれぞれの強みがありますので、両者の教育研究リソースを統合することにより、農業および生物資源活用産業に関わる高度な教育研究拠点（農学教育研究拠点）を構築し、機能強化を図りたいと考えています。独自性を尊重しつつ補完関係を築くという、ユニークな農学教育研究の先駆けとなるべく両大学間で協議を続けています。また、東海地域における農学領域のプラットフォームである「東海農学ステーション」の創設やグローバルな人材育成と研究の共創発展を図る国際プラットフォームの創設についても計画が進んでいます。諸般の状況を鑑みますと、同窓会行事も感染拡大防

止を最優先とした対応が今しばらく続くものと予想されます。総会、評議員会、卒業・修了50周年祝賀会等につきましても、開催の具体についてはホームページ等でお知らせいたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。また、本研究科は、名古屋大学特定基金として「教育研究基金」を設置し、生命農学研究科・農学部在学生の学業を支援する各種奨学金制度を設けています。毎々のお願いで恐縮ですが、次世代の育成に向けてご理解とご協力を是非ともお願いいたします。農学部は2021年に創立70周年を迎えます。この間に、多くの方々が本学部・研究科を巣立たれ、国内外のさまざまな分野でご活躍されていることをたいへん誇りに思っております。70年という重みを礎にして、どのような状況下でも夢をあきらめず、研究科・学部とも、今後一層の発展を目指す所存です。

コロナ禍の中での卒業式を迎えて

農学部同窓会会長 福島和彦

新型コロナウイルスによる影響で大変な状況ではございますが、名古屋大学農学部同窓会（セコイア会）会員の皆様におかれましては、お変わりなくお過ごしでしょうか。このような状況にあっても、大学院生命農学研究科・農学部の活動に対して多大なご理解とご支援を頂き、心より御礼申し上げます。

そして、学部・研究科を卒業・修了される方々におかれましては、ほぼ一年にわたるコロナ禍の中、実験やデータ解析に費やす時間が十分に確保できず、また教員とのコミュニケーションが思うように取れず、かなり制限された条件の中で、卒業研究・修士論文研究を実施されたことと思います。なかには思うように研究が進展しなかった方もおられるかもしれませんが、どのような環境にあっても、諦めず自分で問題解決し、最大限の成果を上げる工夫をされたことは、今後の人生において、大きな財産になったのではないのでしょうか。今後は、これらの経験を活かし、学部・研究科で学び・過ごした日々を大切に、同窓の絆を熟成していただき、コロナ禍や気候変動に直面する不透明な時代において、それぞれの分野において中心的役割を担っていただき、「勇気ある知識人」として生き抜いていってくださることを祈念いたします。

私は、一昨年の総会において、会長を拝命致しました福島和彦と申します。1985年に農学部林産学科を卒業し、1990年に博士課程後期課程を修了、それから今日に至るまで、卒論配属された森林化学（旧林産化学）研究室に在籍しています。次回総会まで約半年の任期

ですが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、この一年半を振り返りますと、コロナ禍の影響で生活様式も社会情勢もすっかり変わってしまいました。我がセコイア会におきましても、新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から、昨年の3月25日の卒業祝賀会は中止にさせていただきました。また、昨年10月17日に予定しておりました総会、講演会はオンラインで開催させていただきました。ご卒業後50年を迎えられた方を対象に例年実施しております祝賀会も中止とさせていただきます、その代わりに特別企画として8名の先輩諸氏より寄稿文をお寄せいただきました。セコイア会（農学部同窓会）HPからいつでもご覧いただけますので是非ご一読いただきますようお願いいたします。令和の時代にいかに生きていくべきか、いかに行動すべきか、という示唆に富んだ内容ばかりですので、ぜひ若い方にも読んでいただきたいと思います。

こうした状況下にあっても、多くの卒業生から心温まるご寄付を頂戴し、心より感謝申し上げます。頂戴しました貴重なご芳志につきましては、母校の発展と同窓会活動の強化のために、有意義に使わせていただきます。

コロナ禍は世界中で社会変革のスピードを加速させています。我が国も温暖化対策として2050年までにカーボンニュートラルにする目標を掲げました。戦後



日本の繁栄を支えてきた産業構造から、一刻も早く脱却することが求められています。今こそ、農学部・生命農学研究科で学んだOB・OG諸氏が持続的社会的構築、人類の存続のために一致団結して、それぞれの分野において中心的プレーヤーとして力を発揮していただく瞬間だと思っています。このような時だからこそ、同窓会ネットワークを活かした同窓生の連携強化を推進すべきです。この一年を通して、同窓会活動がオンラインでもほぼ達成されることは示されました。だれでも、どこでも（海外でも）、いつでも繋がることのできるメリットを活かし、気軽に参加できる楽しい場を提供していければと願っております。セコイア会HPを通して、同期会や研究室単位の会合の情報を適宜発信させていただきますので、積極的に活用して

いただければ幸いです。趣味やスポーツなど新たなグループを結成していただくことも歓迎します。

現在、農学部同窓会理事会では、支部や同窓生のネットワークを存分に活用した組織に移行する改革に取り組んでおります。また、創立70周年に向けての事業を企画しております。同窓生の皆様におかれましても、これまで以上に同窓会の活動に関心を持っていただき、主体的かつ積極的に参画していただけますよう心からお願い申し上げます。今は我慢の時ですが、今回の総会は対面方式で開催され、皆で集い旧交を温め合う日が来ることを心より願っております。

先を見通しづらい状況ではありますが、ご自愛のほど心よりお祈り申し上げます。

農学部での36年間—栄養学とともに—

動物科学専攻（動物栄養科学） 堀尾文彦

1983年3月に名古屋大学大学院農学研究科博士課程（後期）を満了し、同年6月に本農学部農芸化学科助手（栄養化学研究室：吉田昭教授）に採用していただき、1995年には農芸化学科所属の助教授、1998年に大学院生命農学研究科・バイオモデリング講座・助教授（代謝モデル生化学研究分野）として勤務の後に、2004年に中部大学に転出しました。2006年に大学院生命農学研究科・応用分子生命科学専攻・動物栄養情報学研究分野（現在の動物科学専攻・動物栄養科学研究室）に教授として赴任させていただき、現在までに本農学部の教員として36年間お世話になりました。

最初の栄養化学（現在：栄養生化学）研究室では大学院時代から吉田昭先生に栄養学研究の基礎から指導をしていただきました。この経験が私の研究生生活の基本になっています。また、実験動物を使って研究をすることの重要性を学びました。当時は教授、助教授、助手2人、技官あるいは事務官の方という大きな研究室でいろいろなことがゆったりとしていました。私にとって、かけがえのない体験であった約2年間の長期海外出張（米国）の機会も研究室では快く与えていただきました。帰国後8年して、代謝モデル生化学研究分野に移った時には教員1人の研究室でした。実験台とドラフトがあるだけのがらんとした研究室からの立ち上げで、隣の天然物化学の研究室のメンバーとヘテロな環境で毎日を過ごし、一緒に過ごした当時の学生さんたちは研究をするのが大変だったと思いますが、今は皆さんへの感謝で一杯です。私にとっては、これまでに経験したことのない貴重な時間であり、そし

てとても良い思い出となりました。

その後、学外転出後2年して、現在の動物栄養科学研究室（当時は動物栄養情報学研究分野）に赴任させてもらい15年間が経ちました。栄養学を共通の専門分野にして准教授の村井篤嗣先生と講師の小林美里先生と、お互いに助け合って研究室運営をさせてもらいました。そのような経験をやる機会を与えていただいたお二人の先生に心からお礼を申し上げます。また、自分が年齢を積み上げてきた上で、改めて研究室の学生さんたちのそれぞれの個性あふれる気質に触れることができたこともうれしいことでした。この15年間の65名を含め36年間に直接に関わりのあった106名を卒業・修了生として送り出すことができました。

私は、ビタミンCの新たな生理機能の探求や、糖尿病の遺伝因子と食事因子の探求に関して、助手の時代から現在まで動物個体を用いた研究活動を展開することができたことが最良の喜びです。このことを継続できたのは一緒に研究活動をしてくれた名大農学部の大学院生・学部生の皆さんそして一緒に研究室運営をしていただいた先生方のおかげであり、ただただ感謝の気持ちです。

最後に、これからも名古屋大学大学院生命農学研究科・農学部の教員の方々や、卒業・修了された皆さんの中で同窓会の輪が大きく広がっていくことを願っております。



社会に役立つ GOAL を目指して

森林・環境資源学専攻（森林環境資源学） 竹中千里



「あなたの研究は何の役に立つの?」。南極の塩湖の研究をしていた名古屋大学理学研究科大気水圏科学専攻の学生時代によく受けた質問です。当時は、「過去の気候変動の歴史が……」と説明しても、ほとんど理解してもらえませんでした。今でこそ誰でも知っている「気候変動」や「温暖化」という言葉が、まだまだ一般に浸透していなかった時代だったのです。「学位をとったら、社会に直結した研究をするぞ!」と心に決め、いろいろと彷徨った後、落ち着いた（捨てていただいた）のが名古屋大学農学部林学科の教員ポストです。人工林の経済的価値評価やその管理手法の研究を行ってきた「森林経理学研究室」が、これからの森林は「環境資源」として認識すべきと判断して名称を「森林環境資源学」と改めた直後の人事採用でした。これまで主に数学的手法で研究を行っていた研究室が、突然、化学系の人材を採用したわけですので、今更ながら、当時の森林経理学の先生方の決断は画期的だったと思います。スギとヒノキの区別もできない「森林ど素人」であるうえ、化学実験の設備が何もない研究室でのスタートでしたので、着任当時はとても新鮮な経験の連続でした。「木の直径は2cm 括約で……」という測定方法の存在を知った時の驚き、人工林の管理や収穫が美しい関数で表現されることを知った感動、思い起こせば刺激的な毎日でした。その一方で、それまでの森林経理学の卒業生には、「なんでこんな人が……」と不評だったのではと案じておりました。

大気汚染の森林への影響はどうか、というテーマから始まった農学部での研究では、森林に関わる身近な環境問題を化学的なアプローチで解明していくこ

とを目指してきました。手法としては、まずは、フィールド調査で現状を把握し、それをポット実験レベルに落とし込んで、現場で起こっている現象を解明するという流れに徹しておりました。いろいろなテーマに取り組んだのですが、29年間の研究を通してわかってきたのは、「生物と環境との関わりは、未解明なことばかり」ということです。特に研究の困難さと面白さを感じたのは、植物中の微生物についてです。それに最初に気づいたのは、重金属を高濃度で葉に蓄積するタカノツメという木本植物を組織培養しようと試みたときです。通常的手法で葉の断片を滅菌して培養すると、培地が多様な菌だらけになってしまい、葉における内生菌の存在を知りました。「これらの菌は何をしているの? 重金属蓄積と関係あるの?」といった疑問からさらに研究を進めていったとき、また根本的な課題「で、それが社会の何に役にたつの?」に舞い戻っていることに気づきました。

近年、「SDGs (Sustainable Development Goals)」が、これからの社会の目指す方向を考える上で分かりやすい目標として周知されてきています。SDGs も不十分だという指摘もありますが、自分の研究が SDGs のどのゴールを目指しているのかを意識するのは、農学部において重要なことではないでしょうか。「Future Earth」の概念（ここでは省略します）とともに重要なキーワードとして強調させていただき、これからの農学研究の発展を祈念しております。

令和2年度 同窓会役員

名誉会長	土川 覚 (研究科長・生物システム工学)	稲垣 哲也 (生物システム工学)
会長	福島 和彦 (森林化学)	理事 (会計) 竹本 大吾 (植物病理学)
副会長	小川 雄二 (学外)	中西 洋一 (光合成科学)
理事 (同窓会活性化特任)	服部 束穂 (植物細胞機能)	理事 (名簿) 犬飼 義明 (生物遺伝情報)
関東支部	石川 靖文 (学外)	理事 (ホームページ) 小田 裕昭 (栄養生化学)
関西支部	加藤 壽郎 (学外)	理事 (会報) 谷川 東子 (植物土壌システム)
理事 (総務)	三浦 健 (害虫制御学)	事務 宮田 久代 (動物生殖科学)
	村井 篤嗣 (動物栄養科学)	監査 田中 隆文 (森林水文・砂防学)
	渡邊 健史 (土壌生物化学)	邊見 久 (応用酵素学)
	岩崎 雄吾 (分子生物工学)	

令和3年度名古屋大学農学部同窓会 評議員会、総会、講演会、懇親会のご案内

農学部では、名古屋大学ホームカミングデイに合わせて部局の同窓会を開催しております。昨年と同様に、本年も新型コロナウイルス感染症の影響による不確定性を考慮し、対面実施とオンライン実施の両者を睨んで行事の準備を進めております。以下、対面での行事予定についてお知らせをいたします。詳細や実施方法の変更等に伴うアップデートは、農学部同窓会（セコイア会）ホームページ（<https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/>）にてご案内をいたしますので、ご確認ください。

○評議員会

日 時：2021年10月16日（土） お昼前後
場 所：名古屋大学農学部

○総会、講演会

日 時：2021年10月16日（土） 午後より
場 所：名古屋大学農学部
会 費：無料（講演会は一般に公開いたします）
講 師：福與 伸二（ふくよ しんじ）氏
昭和59年3月本学農学部農芸化学科（植物栄養及び肥料学研究室）卒業
サントリースピリッツ株式会社執行役員、5代目チーフブレンダー
演 題：(仮)「ジャパニーズウイスキーの歴史と現在」

○懇親会

日 時：2021年10月16日（土） 夕刻より
場 所：名古屋大学農学部（予定）

連絡先：農学部同窓会 総務 三浦 健
メールアドレス：k-miura@agr.nagoya-u.ac.jp

同窓会の開催について

同日に個人的に同窓会を企画される場合、農学部同窓会の懇親会を1次会としてご利用いただくことができます。同窓会事務局(dosokai@agr.nagoya-u.ac.jp)まで事前にご連絡下さい。必要に応じて、同窓会ホームページを掲示板としてご利用いただくこともできます。

農学部第17回卒業生および修士第15回修了生の卒業50周年記念祝賀会の案内

農学部第17回卒業生および修士第15回修了生の50周年記念祝賀会は、一昨年と同様、名古屋大学ホームカミングデー（2021年10月16日）に合わせて開催する予定です。後日、祝賀会へのご招待状を送付させていただきます。万障お繰り合わせの上ご出席ください。新型コロナウイルスの感染状況によっては、50周年記念祝賀会に代わる企画をご提案させていただきます。祝賀会に関する情報は農学部同窓会ホームページに掲載いたしますので（8月以降）、ご覧ください。

卒業生の言葉

大学生活を振り返って

生物環境科学科 生物システム工学研究室 市野 真裕美

振り返ると、大学4年間の月日は瞬く間に過ぎ、名古屋大学農学部に入学したのがついこの間のこのように感じます。この4年間は、学び、知識を得ただけではなく、多くの出会いがあった貴重な時間でした。

私は、幼い頃から動物、植物などの生物が好きで、特に植物に関心があったため、この学科を志望しました。生物環境科学科では、座学だけではなく、校外でのフィールドワークが多く、班での活動が多かったため、自然と学科の同期と仲良くなりました。特に、3年生のときに行った稲武での3泊4日の実験実習が印象に残っています。座学で得た知識を活かし、生態の調査や測量の技術を実際体験しただけではなく、皆と生活をともにしたことで、絆が一層深まったと思います。稲武での4日間で、花火をしたり、夜遅くまで話をしたり、一緒に料理をしたり、と、ここでは書き切れないほどのたくさんの思い出がありました。実験実習が終わってからも、多くの時間をともに過ごし、一生大切にしたい仲間ができたと感じます。

3年生が終了し、これから研究に力を入れようと思った矢先、世界中で新型コロナウイルスが蔓延し、猛威をふるいました。未知のウイルスは私たちの日常を簡単に奪いました。学生生活最後の1年は、思うように登校できず、出かけることや人と会うのはばかされるような我慢の年でした。仮定の話をして仕方がないのですが、もしも、この感染症が存在しなかったらどんなに良かったらと思うにはいられません。そんな中でも、教授や教員の方々は飛沫防止パネルの設置やアルコール消毒の徹底など、少しでも不安が小さくなるようにと工夫して下さいました。思うように研究ができないこともありましたが、教授方のご指導や先輩方の助言のおかげで、最後まで研究を進めることができました。

最後に、私が大学生活を送れたのは、周りの人に恵まれていたためです。私を大切に育て、どんな時でも応援してくれた両親、コロナ下という大変な状況の中でも指導してくださった教授や教員の方々、ともに過ごした同期、他にもたくさんの人々に支えられてきました。末筆ながら、これまで私を支えてくださった全ての人に心からの感謝を申し上げます。そして、それぞれの未来に幸多からんことを願っています。



大学生活を振り返って

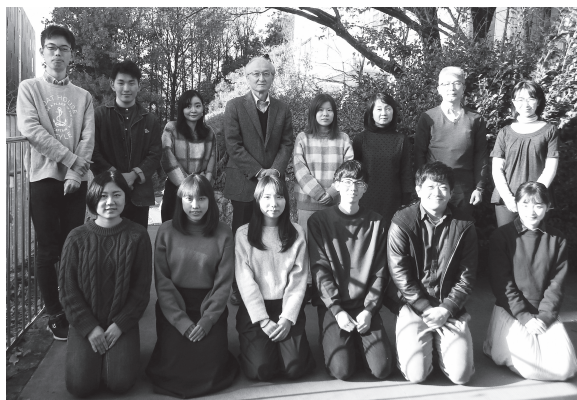
資源生物科学科 動物栄養科学研究室 宮崎 利奈

私は名古屋大学に進学する際に、関東から名古屋に引っ越してきました。新しい地で知り合いもいない中、初めてのひとり暮らしをしながら大学に通うため、不安もたくさんありました。しかし、4年間でたくさんの経験や出会いをし、充実した日々を過ごすことができました。

私が大学生活で力を注いだことはサークル活動です。大学に入って何か新しいことを始めたい、仲間をたくさん作りたいたいと思い、民族舞踊と和太鼓をするサークルに入りました。ほぼ毎日練習に励み、名大祭や自主公演といった目標に向かって皆で突き進んだことは一生忘れられません。サークルは、大学生活の中で私のかげがえのない居場所となりました。一方、サークル活動が忙しかったため、大学のテスト期間には学科の他の人と比較すると、まとまった勉強時間がとれませんでした。そのため、私は普段の授業からしっかりと参加し、時間を見つけては授業の要点を整理したり、授業で理解できなかった点を自分でさらに調べて解決したりして、その穴を埋める努力をしてきました。大学生活の中で、サークル活動と学習の両立のために、時間をやりくりする力をつけられたことが大きな収穫です。

3年の冬からは研究室に配属されました。昔から「食べる」ことが大好きだった私は、「食」と「科学」が結びついたことを研究したいと思い、動物栄養科学研究室への配属を希望しました。実験をすることにより、まだ解明されていないことを明らかにするという点が学生実習とは大きく違う点でした。実験がうまくいかず落ち込むこともありましたが、先生や先輩、同級生に支えられながら研究を行うことができました。大学を卒業してからは大学院へと進学しますが、1年間の研究生生活をベースに、さらに研究を進めていきたいです。

最後になりますが、大学生活で出会った全ての方々、また、離れていても、いつも応援し支えてくれた家族に心より感謝いたします。



大学生活を振り返って

応用生命科学科 分子生物工学研究室 水谷 友香

名古屋大学に入学したあのおときから4年が過ぎ、あと数か月で卒業とは、時の流れの早さを感じます。振り返ると沢山の思い出がもうすでに懐かしく感じられます。

大学生活でなにかに打ち込みたい、新しいスポーツをしてみたいという思いから、私はフライングディスク部に入りました。もちろん楽しい瞬間だけではなく練習の成果が出ずに上手く動けないなどの苦しいときも沢山ありました。怪我が長引き、引退試合にほとんど出られなかった悔しさは今でも残っています。それでも最後までやり遂げたことは、今も、これからも自信になってくれていると思います。しかし、それは思いつき笑いあい、ときにはともに泣いた仲間がいたからのこと。辛い瞬間そして沢山の楽しい瞬間をともに過ごした部活の仲間はかけがえのない存在です。

大学生では、好きな部活に入り、興味のある研究を選択し、自分のやりたいアルバイトをし、そのお金で行ったことのない所へ行ってみたり様々な経験をしたり、新しい趣味を始めてみたりと自分の選択次第で自由に時間を使うことができました。それらを通して、小さなことでも自らの意思を持ち、とりあえず飛び込んでやってみることが、日々を密度濃いものにするために大切なのだと改めて実感しました。

春からは大学院に進学します。まだまだ周りの方々に頼りきりの日々ですが、研究に精進するとともに少しでも自立し、社会へ出たときに役立てるように、また、新型コロナウイルスの影響により制約の多い日々が続きそうですが、その中でも日常を密度濃いものにして、有意義な2年間になるようにしていきます。

最後になりましたが、個性豊かで素敵な友達、いつでも優しく面白い先輩方、親身になって下さる先生方、そして自由に過ごせるような環境を用意し見守ってくれている家族に、心から感謝申し上げます。いつも本当にありがとうございます。そしてこれからもよろしくお祈りします。



学生生活を振り返って

応用生命科学専攻 応用微生物学研究室 中村 真也

気づけば名古屋大学での生活も、もう6年が過ぎようとしています。長いようで短かったこの6年間を語るには、農学部の交友関係、サークル活動、応用微生物学研究室の話題を外すことはできません。

2015年春、不安と緊張を胸に秘め、名古屋大学という新しい環境に身を投じた大学1年生の頃を今でも鮮明に覚えています。高校からの友人と共に講義を受けていたこともあり、月日を追うごとに農学部内での友人が増えていきました。最も記憶に残っていることはやはりテスト週間です。夜遅くまで図書館で勉強し、時には友人たちと共に意見交換や情報共有などを行いました。大学受験で物理と化学を選択し、農学部での勉学に不安を感じていた私にとって、情報共有の機会は大変勉強になりました。一緒に講義を受け、多くの時間を共にした農学部の友人は、かけがいのない存在です。

大学入学時、いくつかのサークルへ見学に行きました。そして、大人な立ち居振る舞いをする先輩方、気の合う同期に惹かれ Polisson というテニスサークルへの入部を決めました。週2回の活動に毎回参加し、3年生の時には副代表となりサークル運営に関わりました。自分たちの代の「色」を出していこうとたくさん話し合った経験によって、私は成長することができました。

記憶に新しいのはやはり研究室生活です。今では貴重な経験だったと思いますが、正直辛いことも多かったです。研究が思い通りに進まず、就職活動のストレスと板挟みになったこともありました。しかし、同期と励まし合い乗り越えることができました。就職後はそれぞれ勤務地が異なるため、全員が再び集まることは難しいかもしれませんが、この繋がりは大切にしていきたいです。

これから新しい環境で働くことになりますが、大学で得た繋がりが家族への感謝を忘れることなく、一生懸命励んでいきたいと思っています。ありがとうございます。



令和2年度総会、講演会、懇親会の報告

令和2年度の総会を、名古屋大学ホームカミングデーに併せて、令和2年10月17日(土)にZoom会議として開催いたしました。会長ならびに名誉会長の挨拶に続き、令和元年度の事業・決算報告を行った後、令和2年度役員を選出し、令和2年度事業計画・予算を審議しました。Zoomでの総会には36名の方にご出席いただきました。

講演会は、総会当日から翌日までYouTubeを利用したかたちで実施し、山本敦司氏(日本曹達(株)・農林害虫防除研究会「殺虫剤抵抗性対策タスクフォース」専門委員、昭和58年3月名古屋大学農学部農学科卒業、昭和60年3月同博士課程前期課程修了、農学博士)によるご講演「～害虫防除に必要なもう一つのテ

クニック～殺虫剤抵抗性管理・対策を生産者に伝える」を動画配信いたしました。本講演会は一般の方々にも公開され、上記期間中に81回の再生を記録しました。

総会終了後の懇親会は残念ながら中止となりました。



農学部同窓会評議員会報告

～進む組織改革、学外会員主体の理事会設立へ～

農学部同窓会評議員会はホームカミングデーに開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響でメール会議としました。

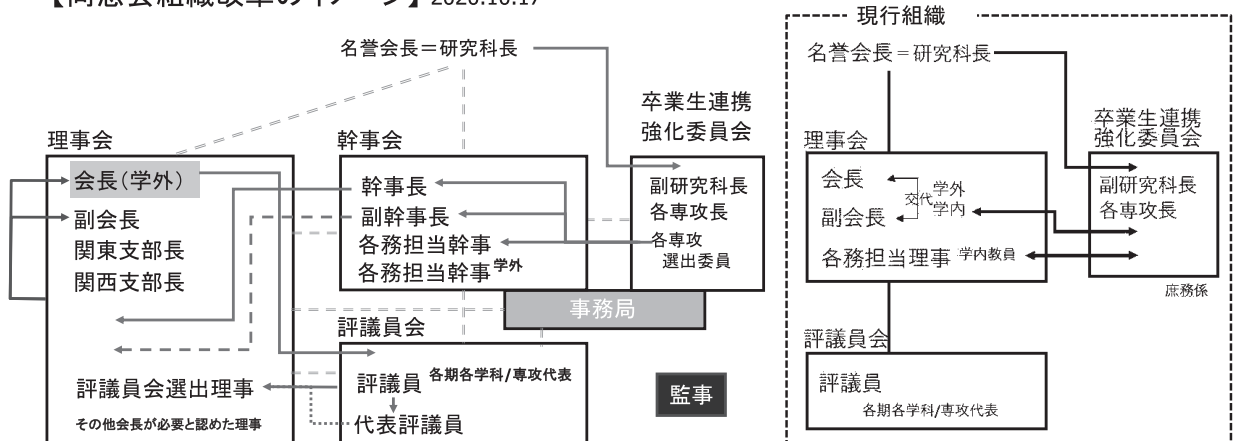
服部束穂特任理事(活性化担当)より名古屋大学農学部同窓会(セコイア会)の組織改革に関する提案がなされました。メール審議(10月3日から11日)の結果、この議案に関して2名の評議員から賛同のご意見を頂きましたが、異議はありませんでした。この結果に基

づき、本案を総会(10月17日)に上程し承認されました。

改革の骨子は、以下のとおりです。

- (1) 一期おきに学外の会員から選出される会長あるいは副会長を除き、農学部教員が構成メンバーであった理事会を執行組織としての幹事会に置き換える。
- (2) 同窓会長を長とした学外会員主体の理事会を新たに設置し、意思決定機関としての役割を担う。

【同窓会組織改革のイメージ】2020.10.17



注) 卒業生連携強化委員会(卒業生との連携強化委員会): 学部・研究科における卒業生および本会との連携強化、交流の促進を図るために設置されている委員会で、卒業生との連携強化・交流促進に関する事項、卒業生と在校生との交流促進に関する事項、同窓会運営に関する事項、その他卒業生及び同窓会との連携強化に関連する事項を取り扱う。現在の委員会は、研究科長、副研究科長、各専攻から選出された委員(同窓会理事を兼ねる)、事務長で組織されている。

農学部第16回卒業生および修士第14回修了生の 卒業50周年記念祝賀会の報告

コロナ禍により対面での記念祝賀会の開催が困難となったため、代替企画「同窓生からの寄稿文」として卒業・修了50周年の方々よりお寄せいただいた寄稿文をまとめ、福島会長による序文を加えたPDFとし、名古屋大学ホームカミングデー開催日の令和2年10月17日(土)より、農学部同窓会ホームページにてダウ

ンロードと閲覧が可能な形で公開させていただきました。8名の同窓生の方々より頂戴しました玉稿は、いずれも在校生への温かいエールと混迷する現代を生き抜くためのヒントに富んだ素晴らしいものであり、併せてお送りくださった沢山のお写真が更なる彩りを添え、70回の推定閲覧数を記録しました。



ホームカミングデー同窓会関連行事

ホームカミングデーに企画しておりました同窓会関連の同窓生在籍企業紹介、懇親会は中止となりました。



人事異動(2020年1月～2021年1月)

日付	氏名	異動内容	職名	所属
2020.1.1	高橋 宏和	昇格	准教授	大学院生命農学研究科植物生産科学専攻
2020.2.1	森田 真布	配置換	助教	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2020.2.1	吉田 英樹	採用	特任助教	生物機能開発利用研究センター
2020.3.16	橋本(杉本)美海	昇格	講師	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2020.3.31	山田 早人	退職	助教	大学院生命農学研究科動物科学専攻
2020.3.31	松田 幹	退職	教授	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2020.3.31	砂野 唯	退職	特任助教	大学院生命農学研究科
2020.3.31	小俣 達男	定年退職	教授	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2020.3.31	松田 洋一	定年退職	教授	大学院生命農学研究科動物科学専攻
2020.4.1	羽根 正弥	採用	特任助教	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2020.4.1	呉 迪	採用	助教	生物機能開発利用研究センター
2020.4.1	西島 謙一	昇格	教授	大学院生命農学研究科附属鳥類バイオサイエンス研究センター
2020.4.1	岩永 青史	採用	准教授	大学院生命農学研究科森林・環境資源科学専攻
2020.4.1	大谷 仁志	採用	助教	大学院生命農学研究科動物科学専攻
2020.4.1	CAMAGNA Maurizio	採用	特任助教	大学院生命農学研究科名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学専攻
2020.4.1	高濱謙太郎	昇格	技師	全学技術センター分析・物質技術支援室組成分析・構造解析技術グループ
2020.5.1	上口美弥子	昇格	教授	生物機能開発利用研究センター
2020.5.16	青山 美幸	配置換	主任	農学部・生命農学研究科教務学生係
2020.7.31	久野 仁美	退職	主任	農学部・生命農学研究科人事係
2020.8.1	小宮山義之	配置換	専門職員	農学部・生命農学研究科事務部
2020.8.31	日置 真優	退職	副技師	全学技術センター生物・生体技術支援室生物機能解析・実験実習技術グループ
2020.9.1	COROVIC Jasmina	昇格	講師	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2020.10.1	浜島 りな	採用	助教	大学院生命農学研究科動物科学専攻
2020.10.1	小木曾豊史	配置換	事務職員	農学部・生命農学研究科人事係
2020.10.31	加藤 大和	退職	技師	全学技術センター生物・生体技術支援室生物機能解析・実験実習技術グループ
2020.12.31	吉田 英樹	退職	特任助教	生物機能開発利用研究センター
2021.1.1	柴田 貴広	昇格	教授	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2021.1.1	山内 卓樹	採用	准教授	生物機能開発利用研究センター

農学部同窓会ホームページ案内

農学部同窓会の活動や、農学部研究室の変遷などに関する情報は、農学部同窓会ホームページ (<https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/>) に掲載中です。住所変更の案内もございます。ぜひご覧ください。ホームページに対するご意見、ご要望等ございましたらぜひお寄せください。(担当：小田 hirooda@agr.nagoya-u.ac.jp)

令和元年度事業報告

- 1) 卒業50周年記念祝賀会の開催
令和元年10月19日、名古屋大学農学部大会議室において第15回卒業生の卒業50周年記念祝賀会を農学部談話会との共同で開催した。
- 2) 総会、講演会、交流会の開催
令和元年10月19日、名古屋大学農学部において総会を行った。
総会終了後、能木雅也氏〔大阪大学教授、2002年本研究科博士後期課程(生物圏資源学専攻)修了〕による講演会「セルロースナノファイバーを使った未来のデバイスと名大農学部で学んだこと」を開催した。講演会終了後、名古屋大学農学部にて交流会を開催した。
- 3) 卒業・修了祝賀会の開催
令和2年3月25日の卒業式・学位授与式が新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止になった。このことから、同日開催の同窓会主催の祝賀会も中止した。卒業・修了記念品は、各研究室において手渡ししてもらった。
- 4) 会報「セコイア通信」の発行
令和2年3月に発行した。
- 5) ホームページの作成と管理
同窓会員の情報交換を促進し、活動の状況を広く会員に知ってもらうことを目的に、同窓会ホームページのリニューアルを進め、充実をはかった。
- 6) 同窓会名簿の管理
全学同窓会名簿システムと連携し、同窓会名簿データの更新を行った。また要請に基づいて名簿情報の提供(1件)を行った。
- 7) 全学同窓会への協力
全学同窓会幹事会に役員を出し、運営に協力した。
- 8) 新規事業の実施
令和元年10月19日ホームカミングデーで、研究科との共催により就職支援企画を行った。新型コロナウイルス感染症問題の発生により、その他の新規事業の発案を見送った。
- 9) 評議員制度の実質化
新たな会員ネットワーク拡大と活動活発化の機会を増やすため、昨年度までに卒業・修了生から選出された評議員により、ホームカミングデー(令和元年10月19日)において、評議員会を開催した。

令和2年度事業計画案

- 1) 卒業・修了50周年記念企画の実施
卒業・修了50周年の方々よりお寄せ頂いた寄稿文をまとめ、卒業・修了50周年記念企画「同窓生からの寄稿文」として、令和2年10月17日より、農学部同窓会ホームページにて公開する。
- 2) 総会、講演会の開催
令和2年10月17日、Zoomを利用してオンラインによる総会を行う。
同日から翌日まで、山本敦司氏(日本曹達(株)・農林害虫防除研究会「殺虫剤抵抗性対策タスクフォース」専門委員)による講演「～害虫防除に必要なもう一つのテクニック～殺虫剤抵抗性管理・対策を生産者に伝える」を動画配信する。
- 3) 卒業・修了祝賀会の開催
令和3年3月25日に卒業・修了祝賀会を開催する。
- 4) 会報「セコイア通信」の発行
令和3年3月に発行する。
- 5) ホームページの作成と管理
同窓会ホームページのアップデートを完了するとともに一層の充実を図る。
- 6) 同窓会名簿データの管理
同窓会名簿データの更新を行うとともに、要請に応じて名簿情報の提供を行う。
- 7) 全学同窓会への協力
全学同窓会幹事会に役員を出し、運営に協力する。
- 8) 新規事業の実施(継続)
農学部同窓会の交流を活性化するための新たな事業を考案する。
- 9) 評議員会の充実
評議員会の活動を充実させる。
- 10) 同窓会組織改革
同窓会組織改革に係る議論ならびに準備をすすめる。

名古屋大学農学部同窓会 令和元年度決算

平成31年4月1日～令和2年3月31日

【収入の部】

費目	決算	細目	金額	備考
会費等	2,452,000	永久会費	1,800,000	90名
		一般会費	230,000	46名
		寄付金	272,000	56名
		広告掲載費	150,000	10件
令和元年度総会懇親会費	0			
前年度繰越金	22,238,133			
合計	24,690,133			
(実質収入 2,452,000)				

【支出の部】

費目	決算	細目	金額	備考
会報発行費	1,412,834	会報印刷・発送	1,411,954	10000部（8506部発送）
		振込手数料	880	2件
令和元年度総会	86,000	講師講演料	30,000	能木先生講演
		講師交通費	15,000	能木先生講演
		役員交通費	41,000	3名
		懇親会費	0	
第15回卒業50周年祝賀会	33,352	飲食代	33,352	
		事務費	0	案内状・写真印刷・発送
評議員会、 ホームカミングデー	105,380	飲食代	105,380	なごみ桜 ¥50,280を含む
		役員交通費	0	学外理事評議会出席
		事務費	0	
卒業・修了祝賀会	210,730	飲食代	0	
		記念品代	97,100	梶
			103,620	不織布バッグ
			10,010	三折パンフレット
		役員交通費	0	1件
新規事業	0			
役員報酬	168,000	役員報酬	168,000	14×12,000
支部支援金	91,320	関東支部	60,000	
		関西支部	30,000	
		振込手数料	1,320	2件
アルバイト代	250,000			事務補助
郵便振替手数料	36,358			
その他諸費用	56,759	交通費	2,000	学外理事理事会出席（2回）
		課税納付	17,389	役員報酬・講演料・アルバイト代
		通信費	2,610	広告費請求及び会報の支部送付
		振込用紙の印刷	34,100	
		振込手数料	660	
次年度繰越金	22,239,400			
合計	24,690,133			
(実質支出 2,450,733)				

名古屋大学農学部同窓会 令和2年度予算

令和2年4月1日～令和3年3月31日

【収入の部】

費目	金額	細目	金額	備考
会費等	2,190,000	永久会費	1,400,000	70名
		一般会費	250,000	50名
		寄付金	420,000	70名
		広告掲載費	120,000	8件
令和2年度総会懇親会費	0			0名
前年度繰越金	22,239,400			
合計	24,429,400			
(実質収入 2,190,000)				

【支出の部】

費目	金額	細目	金額	備考
会報発行費	1,400,000			10000部(8900部発送)
令和2年度総会	30,000	講演料	30,000	山本先生講演
		講師交通費	0	
		役員交通費	0	3名
		懇親会費	0	
第16回卒業50周年祝賀会	0	飲食代	0	
		事務費	0	印刷・発送
卒業・修了祝賀会	281,000	飲食代	110,000	
		記念品代	130,000	
		役員交通費	41,000	3名
新規事業	250,000			
ホームページ管理費	50,000			
役員報酬	180,000		180,000	15名×12,000
支部支援金	90,000	関東支部	60,000	令和2年度分
		関西支部	30,000	令和2年度分
アルバイト代	250,000			事務補助
郵便振替手数料	22,000			
その他諸費用	65,000	交通費	26,000	学外理事理事会出席
		談話会参加費	12,000	3名 年2回
		課税納付	17,000	役員報酬・講演料・アルバイト代
		事務費	10,000	発送費、文房具など
剰余金	21,811,400			
合計	24,429,400			
(実質支出 2,618,000)				

関東支部だより

関東支部長 石川 靖文 (S56食 D)

関東支部では、初夏の新卒者歓迎昼食会と晩秋の総会を定例としているが、今年度は“2019年新型コロナウイルス感染症（COVID-19／武漢肺炎）”の影響で歓迎会は中止、総会については、春日井事務局長（S47農）と若松監査役（S49食化 M）の尽力により（Zoom）オンラインでの開催に漕ぎ着けることができた。

その第23回支部総会であるが、昨令和2年11月14日（土）に開催した。参加者は30名（ゲスト1、会員25、特別4）。特別参加は、全学同窓会関東支部 岸事務局長（理 S46化 M）、工学部機械系同窓会東山会関東支部の山本支部長（工 S50機）外2名であった。オンラインで地理的制約が解消したこともあり、本部役員有志、加藤関西支部長（S45農 M）他、熊本県やタイ王国在住の卒業生などの参加も得ることができた。

総会の議事の部では小職が支部現況報告を、若松監査役が会計・監査報告を、次いで新役員の選出を行った。また特別講演の部では、生命農学研究科長・農学部長の土川先生（S57林産 M）に、「東海国立大学機構と農学教育研究」についてのお話を伺った。

新役員の選出では、現執行体制の再任と新幹事の就任が承認された。新たな幹事として福島先生（セコイア会 会長、H2林産 D）と服部先生（同 同窓会活性化特任理事、S58農化 D）に加わっていただいたが、これは、本部との連携強化のためである。

土川先生のご講演は、東海国立大学機構のロゴ紹介と同機構の概要説明から始まった。名古屋大学がグローバルな研究機関、岐阜大学が地域社会との連携を重視した研究機関と、両者が車の両輪として発展していくことを目指しているとのことであった。

次いで朱・緑・青をシンボルカラーとした研究科・学部の新しいロゴ紹介とそれぞれの現況説明へと続いた。

研究科では、タイ王国カセサート大学、西オーストラリア大学などとの“JOIN DEGREE PROGRAM”、フィリピン、ラオス、カンボジアなどアジア諸国の政

府系機関の局長クラスの高官が博士号（Ph.D）を取得できるようにするプログラム“名古屋大学アジアサテライトキャンパス学院”が紹介された。

学部の現況では、生物環境科学科（林・林産系）35名、資源生物科学科（農・畜産系）55名、応用生命科学科（農化・食化系）80名で、学生数（200名）は変わらないものの、卒業後の進路では大学院進学75%、就職20%、その他5%と、進学率が高まっている。また女子学生が元気で成績も良いとのことであった。

大学を取り巻く環境は厳しく、国家財政逼迫による運営交付金の漸減、18歳人口の減少、大学数の大幅増など、社会環境の急激な変化の中で、名古屋大学が東海地域に存在することの意義（学問的・社会的使命）が改めて問われており、大学新時代へチャレンジするべく、大学院重点化、大学・産業界・地域社会の共同、マルチキャンパスなどが施策されているが、「東海国立大学機構」もその一環とのことであった。

生命農学研究科・農学部は、令和3年に学部設置70周年を迎えるなど、大きな節目に当たっているが、『勇氣ある知識人』として、東海地域における農学プラットフォームの構築に邁進したいと語られた。

喫緊の課題である COVID-19対策については、名古屋大学の活動方針が示され、“新型コロナウイルス感染症対策緊急学生支援基金”“名古屋大学における学生への食糧支援について”といった対策が紹介された。これらについては、当支部でも協賛し、昨夏、HPに掲示したり E-mail で周知したりして支援を募った経緯がある。

質疑応答では、質問者の在学時に比べた大学の研究環境の変化、特に財政（研究費）事情と、先生方の研究外の業務負担について心配する声が多かったが、いろいろな制約はあるものの、研究活動に支障を来さないよう、明るく前向きに努力しているとのことであった。

一旦休憩後、加藤関西支部長の音頭で「どこでもカンパイ！」を行い、参加者の近況報告に入った。毎日10,000歩以上歩いていて昨日は23,000歩、家庭菜園でブドウを育てジャム作り、庭いじり嵩じて庭園管理の



資格を目指す、山登り、COVID-19対応の苦心、滝川（教養部）・安城（学部）共に最後の学生、アラエイティ（Around 80）で現役と変わらない仕事、ボランティアで放課後子供教室10年、名大オーケストラの先輩・後輩の邂逅——など多士済々、時おり子供の声が聴こえてくるのはオンラインの御愛嬌というべきか。

恒例の森中定治さん（S47農）による「テノール独唱」は、都合で叶わず、代わりに9月の東京国際音楽コンクール2位入賞の際の『ビゼー／耳に残るは君の歌声「真珠採り」』の録音の一部が流された。

近況報告の後、学生歌「若き我等」を斉唱したが、オンラインの悲しさで斉唱ならず。一人某氏の熱唱が響いたが、これこそが同窓会の醍醐味であろう。

最後に記念撮影をし、福島会長に閉会の挨拶をいただいた。COVID-19下でも、オンラインによって皆が繋がることができ、同窓会の活躍の場が広がる事が確認できた。オンライン・サロンの可能性も検討したいとのこと。中締めは、Zoomの反応機能（いいねボタン）を使った“ネット一本締め”となった。

次回第24回総会は、本年11月13日（土）13:30～17:30 東京神田錦町の學士會館で開催、副研究科長の山内章先生にお越しいただき「気候変動下におけるアジア・アフリカの米増産への挑戦」（仮）についてお話しを伺う予定である。新卒者歓迎昼食会については、6月12日（土）學士會館で開催の方向で進めている。

前回第22回総会での松田洋一先生のご講演「驚きの性の進化史」については、その抄録を、學士會総合情報誌『NU7』2020.7 No.30に掲載した。希望者には郵送しているので、氏名と住所をご連絡いただきたい。

HP : <http://www.nua-alumkanto.sakura.ne.jp/>
連絡先 E-mail : alum-kan@agr.nagoya-u.ac.jp

名古屋大学農学部同窓会関西支部だより

関西支部長 加藤 壽郎（S45農 M）

関西支部の主な活動は、毎年11月に開催する総会ですが、2020年は、世界を恐怖に陥れたコロナ禍のため、開催を中止といたしました。従いまして、この度の報告では、会員の皆さんがコロナ禍の中、どのような生活をおられるかをお伝えいたしたく思います。7名の会員の方からご寄稿いただきましたので以下にご紹介いたします。（以下、事務局への原稿到着順に記載します）

○現在、私は民間企業の研究部門にて勤務いたしております。主たる業務は、高機能化学品を生産する微生物株の育種、解析です。昨年はコロナによる影響で、4月から5月末まで出社禁止となっております。実験が主体となる仕事ですので、在宅勤務では仕事を思うように進められませんでした。一方で、昨年3月に長男が生まれ、同時期に保育園が閉園されて

いた4歳の長女とともに、在宅により長い時間を共有できたのは、とても貴重であったと振り返っております。（野口祐司 H22 生機 D）

○NHK「プラタモリ 白川郷」（12/5放映）で、合掌家屋床下ではかつて、焰硝（硝石）が作られていたことが、紹介されました。私が明らかにした白川郷の焰硝生産の意義について、番組制作担当者による取材内容が番組に反映されておりました。また、妻と共著で昨年7月15日に、「いのちを味わう これからの食をみすえて」を風媒社より上梓しました。この本は中日新聞（9/2）と神戸新聞（10/11）に紹介されています。また、原稿を書くにあたってお世話になった方々にお礼するため、10月下旬に岐阜県白川村を訪問した時のことが朝日新聞岐阜版に掲載されました。（馬路泰藏 S41 農化）

○私は昨年、公認心理師の資格をとりました。今はカウンセリングや発達障害児の療育の仕事をしていません。農学とは畑違いですが、第三の人生、心理学を勉強していきたいと思っています。

（大賀久美子 S54 農化）

○彦根城のボランティアガイドをしています。コロナ禍で予約が激減。外国人観光客は皆無。そのような折ですが、広報ひこね1/1・15号のガイド養成講座の募集記事に、私のインタビューを載せていただいたところ、受講希望者があり、ほっとしているところです。今年は、次世代のガイド育成に注力し、アフターコロナに備えます。

（早田孝司 S56 林産 M）

○大阪大学で医学博士を取得後、最近ではQA（信頼性保証）の仕事に興味を示しています。日本のQA研究会や欧米のQA団体に所属し、医薬品の業界を舞台に活動していますが、昨年2月の仙台での国際会議を最後にその後はすべてウェブ会議になっています。ワクチンや抗ウイルス剤の開発に果敢に取り組んでいる業界ですが、元気がありません。もう一つの家業で京七宝の仕事もしていますが、こちらも厳しい状況です。京都の経済界は四条烏丸に京都経済センターのビルを新設、商工会議所を中心に中小企業の諸団体が拠点を置いて活動しています。昨年は前会頭をコロナで失いました。今年の年賀状では「発熱してPCR検査を受けたが陰性で安堵した」などもあり、身近にせまる脅威に身を引き締めて皆様の無事を祈っています。（野村章 S45 農 D）

○まだ、サラリーマン生活が続いていますが、会社から「コロナにおける高齢者リスクがあります」ということで、健康に気をつけています。昨年からはスイーツ等のお菓子を極力控え、食事時の咀嚼回数を一口で50回以上行い、毎日1万歩以上歩くことを心掛けています。この結果、体重は学生時代の61kgになり、血液検査の結果はすべて正常になりました。半分はコロナのおかげ（？）でもあります。

（入野哲朗 S54 林産）

○私にとって2020年はとても大変な年でした。2019年の秋に、東京に来て欲しいと言われ、1月から東京での単身生活を始めました。しかし、とたんにコロナ感染が広がり、通勤の満員電車は怖くて乗れません。感染がさらに広がり、緊急事態宣言が発令されると在宅勤務で難をのがれていましたが、在宅なら東京でなくても、姫路の自宅でよいと時々戻ったりしていました。本来の勤務契約は7月までだったのですが、延長となり、昨年末からは姫路に戻っての正式な在宅社員でいます。通勤電車の状況だけから見ると、東京は夏ごろから、4月の緊急事態宣言前の状態に戻っていましたから、今の感染者急増はなるべくしてなったとしか思えません。コロナに対する最初の恐れのような気持ちを忘れないで、要所を締めてうまく付き合うことがとても大事だと痛感しています。今は、東京から地方に感染が広がってきていることに身を引き締めております。

（駒田肇 S55 林産 D）

（事務局）寺前 朋浩（S61生 M）

〒669-1103 兵庫県西宮市生瀬東町37-23

E-mail : rikatomo@ares.eonet.ne.jp

名大遠州会だより

佐々木 健（H5畜）

名大遠州会は、静岡県西部（大井川以西）に居住または勤務する名古屋大学、大学院またはその前身校出身者から構成され、平成8年に設立されました。同窓会を毎年、また総会は隔年で開催しています。しかしながら、令和2年度の開催は、件のコロナ禍の影響により残念ながら中止となってしまいました。本来ですと、本同窓会は毎年70～80名前後の会員が集まり、来賓として名古屋大学の総長や全学同窓会副会長をお招きして懇親会を90分ほど行っております。さらに、この懇親会には、ビンゴゲームやミニコンサートなどの企画も盛り込まれており、老若男女を問わず楽しめるものとなっております。令和3年度は、まだ開催の見通しは立っておらず未定となっておりますが、例年通りですと6月の第2土曜日に行われます。遠州会会員の皆様には案内状の郵送にてお知らせする予定ですの



で、何卒よろしく願いいたします。また、遠州地区にお住いでこのセコイア通信をお読みの方（名古屋大学農学部や大学院生命農学研究科の卒業生）で、本「遠州会」にご興味をお持ちの方は、当方にメール等でご連絡くださればご案内いたします。

さて、本年は同窓会に関する報告が少ないため、ここからは本稿をお読みの農学部同窓会の皆様に、この場をお借りして例年と同じく少し浜松の紹介をしてみたいと思います。もっとも、本年は私が勤務しております浜松医科大学の自然について面白おかしく紹介いたします。

名古屋大学の東山キャンパスもかなり自然は豊かであったと記憶していますが、当浜松医科大学も周辺の住宅地や農地と比較するとかなり自然を残しています。そして何より、10km圏内に南アルプスから連なる山々が迫っているためか、多種多様な動植物が生息しているように思います。実は本学の敷地内には、山から迷い込んだカモシカが一匹、もうかれこれ5年ほど居着いてしまっています（写真）。また、リス、タヌキ、ハクビシンはもちろん、最近ではクマとサルを目撃情報もありましたが、さすがにクマは誤情報ではないかと思っております。他には、湧水の出る場所にサワガニがコロニーを形成していたり、一部の職員しか知らないマツタケの生える場所もあるとか無いとか…？ちなみに先ほどのカモシカ、数年前に学生の車と衝突事故を起こし、カモシカは無事だった反面、学生の車は破損したそうです。そしてその一報を聞いたある学務課の職員は、学生やその車のことよりも真っ先にカモシカの心配をしたという逸話も残っています。私自身も何度かこのカモシカを目撃していますが、一番衝撃的だったのはその事故の後にカモシカが横断歩道を渡っていたことでした（これは誤情報ではないです）。ということで、余談はこれくらいにいたします。これをお読みの皆様、今後ともこの遠州会をどうぞよろしく願いいたします。

連絡先：遠州会農学部幹事 佐々木 健

〒431-3192 浜松市東区半田山1-20-1

浜松医科大学 器官組織解剖学講座

Tel : 053-435-2293 Fax : 053-435-2290

E-mail : tsasaki@hama-med.ac.jp



農学部の話題 —2020.1.1-2020.12.31—

- ・中部大学大場裕一教授らは名古屋大学などと共同で、暗闇で光る魚「キンメドキ」が食べたエサに含まれる発光酵素を使って光ることを突き止めた 2020.1.13日経
- ・お仕事ファイル 動物園の飼育員 田中理映子さん大学院修了生 2020.1.18中日
- ・ウミホタルを捕食 ルシフェラーゼ消化せず利用 キンメドキ発光の謎解明 2020.1.17科学新聞
山本直之教授
- ・都市部に国産木材を NPO 設立 名大で研究者ら会議 佐々木康寿本学名誉教授 2020.1.23読売
- ・中部大学大場裕一教授らは暗闇で光る魚「キンメドキ」が食べたエサに含まれる発光酵素を使って光ることを突き止めた 2020.1.27朝日（夕刊）
- ・日本の農業経営を考えるシンポ開催 福島大学教授生源寺眞一氏本学元教授 2020.2.5毎日
- ・母乳や卵などに多く含まれるシアル酸が多くつながった「ポリシアル酸」が、うつ病の改善や「やる気」の向上に関わっていることを、九州大学や名古屋大などのグループがマウスの実験で見つけた 2020.2.7朝日（夕刊）
- ・東海キャンパ:さあ、起業してみよう 訪日客を家庭の台所へ「エアキッチン」運営 名大大学院永津豪さん 2020.2.7毎日
- ・接ぎ木、遠い種同士でも 名古屋大学など、接着成分を特定 野田口理孝准教授 2020.2.14日経
- ・2020愛知環境賞 銅賞 名古屋大学など 都市の木質化 2020.2.14中日
- ・ひと@あいち：名大の女性活躍推進 男女共同参画センター長東村博子氏 2020.3.9毎日
- ・学堂保育 木造に ストレスの軽減期待 2020.3.17読売新聞
- ・日本酒探Q 酒米いろいろ 人気変遷 東海地方にも優れた品種 2020.4.25読売新聞
チャボの短足 原因を解明 名大チーム 骨作る遺伝子に特徴 2020.5.14毎日新聞
- ・葉の栄養不足伝達ホルモン 名大・松林教授ら発見 英科学誌電子版に発表 2020.6.6中日新聞
- ・研究と地域創生 相乗効果狙い 国立初・名大と岐阜大運営法人統合 北海道3大学など他大も検討 2020.6.8毎日新聞
- ・日本酒探Q 「水」次第で変わる味 ミネラル分 発酵を左右 名城大農学部・加藤雅士教授 2020.6.27読売新聞
- ・茎を伸ばす遺伝子発見 名大など草丈調節、収穫増も s 2020.8.6中日新聞（夕刊）
- ・タバコ属で異科接ぎ木 名大、VB と実用化目指す 2020.8.7日刊工業
- ・異なる種類の接ぎ木 タバコ属が「接着剤」 名大・中部大など「食料問題解決へ一歩」 2020.8.7中日新聞
- ・タバコ 遠縁でも接ぎ木 菊→タバコ→トマトで成功 2020.8.7岐阜新聞
- ・イネの茎 遺伝子が伸び制御 アクセルとブレーキ役 名大確認 2020.8.7朝日新聞（夕刊）
- ・キクの上でトマト栽培 タバコの茎「接着剤」に 名古屋大が考案 2020.8.8日本経済
- ・接ぎ木の仕組み 解明に一歩 爪の蔓に茄子がなるかも 酵素で細胞壁溶け接着 名大などチーム 2020.8.14朝日新聞
- ・太古の深海で光のコミュニケーション サンゴの発光 3億年前から 名大など 現代種を詳細分析 2020.9.3岐阜新聞

- ・ 3億年前からサンゴ発光 光る能力、現代の種に継承 名大、米水族館と共同研究 2020.9.3中部経済研究
- ・ サンゴの祖先 光る能力 名古屋大と米研究チーム 3億年前 現代種に継承の可能性 2020.9.7毎日新聞
- ・ 樹齢1300年、倒れた大杉に研究者が熱視線 2020.9.16朝日新聞
- ・ 大杉の倒木原因レーザー解析 名大の准教授ら 瑞浪・大湫神明神社で調査 2020.9.16中日新聞
- ・ 岐阜大に「糖鎖」研究棟 老化、認知症に関わる分子解析 23年完成国内外500人と連携 2020.10.16岐阜新聞
- ・ 糖鎖2万人調査研究へ 名大、岐阜大など血液解析 老化の仕組み解明期待 2020.10.17中日新聞
- ・ 「理由示し拒否撤回を」 学術会議問題 名大教員ら抗議声明 2020.10.17毎日新聞
- ・ 深海発光サンゴ新たに4種 3.5億年前からか 名大などが発見 2020.10.22中日新聞
- ・ 岡本若手奨励賞 嶋田助教ら2氏 名大で授与式 2020.10.30中日新聞
- ・ キクに接ぎ木 トマトの実 タバコが仲介 農業活用も 名大などのチーム開発 2020.11.1読売新聞
- ・ 名大、「砂糖イネ」開発 中国の大学と 広範囲で生産可能 2020.11.5日刊工業
- ・ エゴマ 山県の特産品に 名大初ベンチャーと共同 初の収穫作業 2020.11.7中日新聞
- ・ エゴマ品種改良目指す 山県市の農事組合法人とベンチャー企業が研究 200品種栽培 22年秋にも感染 2020.11.10岐阜新聞

同総会寄付者一覧

(2020.2.1～2021.1.31)

本年度、農学部同総会に対し以下の方々より寄付金をいただきました。ありがとうございました。(敬称略)

青木 瑞希	青山 幸弘	浅居 湧登	池上 啓介	石川 尚雄
伊藤 憲一	伊藤 考生	井上 忠彦	猪又 豊生	上田 潤
氏家 拓真	内山 雅春	江川 明裕	榎本 廉	大橋 愛
大村 百合	岡島 大洋	岡田 実憲	小野 知洋	春日井 治
片岡 正明	金子憲太郎	神谷萌々子	木村 恭文	木村 真人
清原 貞夫	釘宮 珠伎	倉地 洋子	栗本 重夫	小杉 悟
小林 龍樹	坂口(葛原)有紀子	新海 義秋	杉浦(磯村)克己	杉原 賢治
杉原(岩田)純子	曾宮 正晴	武村みどり	筒木(藤井)和美	手嶋 勇人
寺澤 勇	徳田(安東)瑞子	中村友紀子	長坂 実咲	成瀬 和也
西村 弘行	新田 晏夕	野村 佳市	袴田 凧沙	長谷川靖彦
服部 誠	林 佑樹	原 依里奈	馬場 伸之	坂野 大義
平林 良一	福井 敏夫	藤川 璃子	古田 隆則	牧野 郁雄
松本(金田)和子	水野 修一	三津井 宏	水上(村上)優子	三宅 大浄
村上 敏幸	村越有里子	矢野 卓雄	山際 紳一	山口 章
山口堅一郎	山口 大樹	山中 晟	山村 淳一	山本 敦司
山本 義典	吉村 茜璃	渡辺 広次		

全学同窓会だより

社会に開かれた指定国立大学として名古屋大学が発展していくためには、大学と同窓会の緊密な連携が必要とされており、大学と同窓会は連携して社会に一層の情報公開を行い、社会から種々のニーズを汲み上げる必要があります。また、同窓生にとって、専門分野を越えての情報交流は従来にも増して重要になってきました。こうした時代背景の中、全学的な見地に立って、部局同窓会と連携しながら卒業生、学生、教職員の交流の場を提供し、名古屋大学全体の種々の活動に関する情報を発信することを目的として、平成14年に全学同窓会組織が設立されました。現在、農学部同窓会からは全学同窓会幹事（福島和彦、三浦健、岩崎雄吾）として参画しています。

全学同窓会は、2020年度、以下の活動を行いましたのでご報告いたします。

1) 全学同窓会役員について

第19回評議員会（書面審議）において、全学同窓会会長の交代が承認され、11月1日付で全学同窓会会長に柴田昌治前副会長が就任され、豊田章一郎前会長は同日付で全学同窓会名誉会長に就任されました。また、新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、代表幹事を含む役員任期を一年延長することとしました。

2) ホームカミングデー

10月17日にオンラインで開催しました。

3) 拠点形成

関東支部、遠州会、関西支部、岐阜支部の総会、後援会等は新型コロナ感染症の影響で中止となりました。また、全学同窓会海外支部歓迎会も中止となりました。

4) 部局同窓会との連携強化

予定していた「名古屋大学同窓会サミット」は新型コロナウイルス感染症の影響で中止しました。また、令和3年2月22日に学士会と共催で、所功氏による講演会をオンラインで実施しました。

5) 学生支援

寄附講義「キャリア形成論」（卒業生が講師を務める全学教養科目）の支援（50万円）を行いました。新たに令和3年度から3年間にわたる「キャリア形成論」の支援延長を決定しました。

人力飛行機製作サークル AirCraft 鳥人間コンテスト出場及び優勝に向けての機体製作及び運用を支援しました。

また、全学同窓会活動を紹介する広告を名大祭パンフレットに掲載する予定でしたが、コロナ禍のために中止となりました。

6) 名古屋大学基金への寄付

名古屋大学では年度末までの期間限定で、現役学生を支援するため、「新型コロナウイルス感染症対策緊急学生支援基金」を立ち上げています。全学同窓会として、設立の理念である全学的見地からの学生支援による人材養成への貢献等、その趣旨に沿ったものとして、同基金に100万円を寄付しました。

7) 広報活動

Newsletter No. 34 (2020年10月) No. 35 (2021年3月) を発行しました。No. 34においては、新型コロナウイルス感染症の景況で掲載予定行事が中止、延期になった状況等に鑑み縮小版としました。

事務局だより

事務局では農学部同窓会会員録データの改訂を行っています。転居および転勤の際は、同窓会事務局 (dosokai@agr.nagoya-u.ac.jp) までご連絡ください。今後も会員の皆様からのご質問・ご要望にお応えして参りたいと考えております。ご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

天然と合成を融合して
地球に優しい
健康美と機能美を創造する
研究開発型
化学品メーカー



株式会社 岐阜セラツク製造所

TEL:058-272-0831 FAX:058-272-0704

千年少年

Sennen Shonen

1000年先の地球と語り合う、少年のような視点と、純粋な心。

地球という大きな星が与えてくれた
シンプルでピュアな贈物、
それは記憶の中の少年の目と
心にくっきりと映っている。
一杯の水、大地の実り、雨の恵みや、木の木陰・・・
地球がくれるシンプルな贈物について、
私たちは真面目に考えたいと思う。
壮大なプロジェクトの中に、高度な技術の結晶の中に。
千年先の地球と共に。



SC 株式会社三祐コンサルタンツ
Sanyu Consultants Inc.

“おいしい”はエサで、できている

中部飼料株式会社

[本 社] 愛知県名古屋市中区錦二丁目 13-19
[事業内容] 配合飼料の製造販売、
有機入り配合肥料の製造販売等
[問合せ先] 052-204-3051
saiyo@chubushiryo.co.jp
採用担当：山崎

各種高圧ガス及び設備の設計・施工
高圧ガス関連機器・各種実験機器



有限会社
アルファシステム

〒465-0013 名古屋市名東区社口1-1004
TEL. 052-776-4567 FAX. 052-776-4568
<http://www.alphasystem.biz>



印刷業から情報デザイン業へ

Info. + Design

長年培った表現技術を活かし、「印刷業」から
「情報デザイン業」へと進化していきます。

販促支援サービス

マニュアルサービス

P&Dサービス

教育出版支援サービス

株式会社 **クワイックス**<http://www.kwix.co.jp>

■本 社 〒448-0025 愛知県刈谷市幸町2-2
TEL 0566-24-5511 FAX 0566-26-0200

代表取締役社長 岡本 泰

全国同窓会名簿作製・同窓会アドバイザー

SALAT
Salat Corporation

株式会社 サラト <http://www.salat.co.jp/>

本社 兵庫県姫路市北条宮の町172
Tel.079-284-1380 Fax.079-224-7746

理化学器械・研究設備・光学機器・ガラス器具

主要取扱メーカー

アズワン	三洋電機
東京理化	タイテック
旭硝子	日本エイダー
久保田商事	オートー
名古屋三立製作所	アドバンテック東洋

MZH

株式会社 **みずほ理化**

〒468-0066 名古屋市天白区元八事一丁目33番地
TEL 052-831-8800
FAX 052-834-4117
E-mail: mizuhorika@k2.dion.ne.jp

酒類、醤油、調味料、味噌、漬物、清涼飲料水の製造及び販売



盛田株式会社



【本社】〒460-0008

愛知県名古屋市中区栄一丁目7番34号 電話番号 052-229-1600
<http://moritakk.com/>


mizkan
やがて、いのちが変わるもの。



農学部同窓会事務局では、広告の募集をしております。本会報の発行部数は、現在約10,000部で、本学農学部関係者に配布されています。会社の広告、同窓会の通知などにご利用下さい。

詳しくは、同窓会事務局まで。

個人情報の取り扱いについて

名古屋大学農学部同窓会では個人情報の正確で適切な管理に万全を期するため、会員データの管理を株式会社サラトへ委託しております。株式会社サラトは愛知県内約80校全国約1,500校の同窓会で会員データ管理を手がけ個人情報保護法に最も精通したプライバシーマーク取得企業です。なお、サラトは得られた個人情報を責任を持って厳重に管理し、個人情報を第三者に開示または提供しないことについて、名古屋大学農学部同窓会とサラトとの間で契約を取り交わしております。